◇┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳◆

**食科協かわら版　No.333　（2022年度No.11）**　 　2022/3/25

食の行政情報ならびに食中毒情報をお伝えする食科協のメールマガジン

食中毒情報は１回限り　行政情報は原則2回の掲載で削除します

新しいものは*NEW*マークがついております　期限設定のある記事は　期限終了まで掲載

**青字をスクロール　Ctrlキーを押しながらクリック　もしくは右クリックでハイパーリンクを開く**

◇┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻◆



|  |  |
| --- | --- |
| **目次** | **ページ** |
| 1. [**食科協関係**](#食科協関係)**事業経過等** | **2** |
| **2**[**厚生労働省関係**](#厚生労働省関係) | **2-6** |
| **3**[**食品安全委員会関係**](#食品安全委員会関係) | **6-7** |
| **4**[**農水省関係**](#農水省関係) | **7-18** |
| **5**[**消費者庁関連**](#消費者庁関連)**リコール情報** | **18-21** |
| **6**[**食中毒・感染症**](#食中毒・感染症)  **細菌性食中毒→ウイルス性食中毒→寄生虫→自然毒→感染症→違反品の回収→他**  **各項目発生順で記載　菌種については月により掲載位置が変動しています** | **21-29** |

**１．****[食科協関係](#食科協関係)**

3月18日　　かわら版332号・かわら版ニュース＆トピックス219号を発行。

3月22日　　かわら版ニュース＆トピックス220号を発行。

3月22日　　第三回臨時理事会開催。

3月25日　　かわら版333号・かわら版ニュース＆トピックス221号を発行。

3月25日　　ニュースレター224号を発行。

**ニュースレター　皆様の寄稿をお願いいたします**

**２.****[厚生労働省関係](#厚生労働省関係)**　<https://www.mhlw.go.jp/index.html>

**★***Link***傍聴・参加が可能な審議会等の会議一覧　ご案内しきれないときもございます**<https://www.mhlw.go.jp/topics/event/open_doors.html>

**★***Link***副反応疑い報告の状況について（とても詳しい資料です）**

**厚生科学審議会 (予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会)**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-kousei_284075.html>

**■***NEW***「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」の結果を公表します　2022/3/23**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24693.html>

　　女性への健康支援の観点から、経済的な理由で生理用品を購入できない女性がいるという「生理の貧困」に関して、問題を抱える女性の分布や心身の健康状態、日常生活への影響等についての実態や現状を調べるため、「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」を実施しました（令和４年２月）。

　この度、調査の結果を取りまとめましたので公表いたします。詳細は、別添の結果概要のとおりです。

　【調査結果のポイント】

　○生理用品の購入・入手に苦労している人の分布（第１表）

「新型コロナウイルス発生後（2020年２月頃以降）、生理用品の購入・入手に苦労したこと」が「よくある」「ときどきある」のは回答者の8.1％（244人）であった。「よくある」「ときどきある」の割合は、年代別にみると30歳未満で、世帯年収別にみると300万円未満の者で、それぞれ高くなっていた。購入・入手に苦労した理由は「自分の収入が少ないから（37.7％）」「自分のために使えるお金が少ないから（28.7％）」「その他のことにお金を使わなければいけないから（24.2％）」等が挙げられた。

○生理用品を購入・入手できないときの対処法（第２表）

生理用品の購入・入手に苦労したときの対処方法として、「よくある」「ときどきある」を合計した割合がもっとも高いのは、「生理用品を交換する頻度や回数を減らす（長時間利用する等）（50.0％）」、次いで「トイレットペーパーやティッシュペーパー等で代用する（43.0％）」「家族や同居者に生理用品をゆずってもらう（39.8％）」「友達に生理用品をゆずってもらう（33.2％）」であった。

○身体的な健康状態（第３表）

生理用品の購入・入手に苦労したときの対処法として、「生理用品を交換する頻度や回数を減らす（長時間利用する等）」「トイレットペーパーやティッシュペーパー等で代用する」「タオルやガーゼ等の布で代用する」を選択した人に対して、生理用品を購入・入手できないときの身体症状について尋ねたところ、「よくある」「ときどきある」の合計は、「かぶれ」が73.5％、「かゆみ」が71.5％で、「外陰部のかゆみなどの症状」 「おりものの量や色の異常」 「外陰部などの発赤、悪臭」 について、いずれも半数を超えていた。

○精神的な健康状態（第４表）

悩みやストレスの尺度である「K6※１」を用いて精神的な健康状態を測定したところ、生理用品の購入・入手に苦労したことが「ある」人の平均値は13.1点で、「心理的苦痛を感じている」とされる10点以上の人が69.3％であった。一方、苦労したことが「ない」と答えた人の平均値は6.4点で、10点以上は31.1％であった。

※１　K6、Kesslerら（2003）。合計得点は０～24点、得点が高いほど精神的な不調が深刻な可能性があるとされる。

○社会生活への影響（第５表）

生理用品を購入・入手できないことを理由とする社会生活への影響については、「プライベートのイベント、遊びの予定をあきらめる（40.1％）」「家事・育児・介護が手につかない（35.7％）」、「学業や仕事に集中できない（34.1％）」などが挙げられた。

○生理用品に関する公的支援制度の認知・利用状況（第６表）

居住地域で行われている生理用品の無償提供の認知については、生理用品の購入・入手に苦労したことが「ある」人のうち、制度があるかが「分からない」は49.6％であった。また、制度を知っている人のうち、利用したことがある人は「17.8％」のみであった。市区町村での無償提供を知っていたが利用しなかった理由として「必要ないから（69.8％）」の他、「申し出るのが恥ずかしかったから（8.5％）」「人の目が気になるから（7.8％）」「対面での受け取りが必要だったから（6.2％）」等が挙げられた。

　　「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」の結果について

<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000917682.pdf>

**■***NEW***医薬品等を海外から購入しようとされる方へ　2022/3/23**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iyakuhin/kojinyunyu/index.html>

**■***NEW***第27回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会　資料　2022/3/22**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24678.html>

**■***NEW***令和４年３月23日薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会器具・容器包装部会（オンライン会議）資料　2022/3/22**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24600.html>

**■***NEW***第77回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和３年度第30回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）　資料　2022/3/18**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000208910_00039.html>

**■***NEW***第６回厚生科学審議会科学技術部会ゲノム編集技術等を用いたヒト受精胚等の臨床利用のあり方に関する専門委員会　資料　2022/3/18**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24601.html>

**■***NEW***薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会食中毒部会　配付資料　2022/3/17**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24326.html>

**■東京栄養サミット2021関係　2022/3/15**

**パンフレット「日本人の栄養と健康の変遷」を掲載しました**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000089299_00001.html>

**■2022年１月12日　第24回厚生労働統計の整備に関する検討会　議事録　2022/3/11**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24355.html>

**■薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会添加物部会（オンライン会議）資料　2022/3/10**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24312.html>

**■***NEW***食品中の放射性物質の検査結果について（１２８０報）　2022/3/23**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24403.html>

**■原子力災害対策特別措置法第20条第２項の規定に基づく食品の出荷制限の解除　2022/3/16**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24453.html>

　　本日、原子力災害対策本部は、原子力災害対策特別措置法に基づき出荷制限が指示されていた、岩手県奥州市おうしゅうし（旧前沢町まえさわちょう及び旧衣川村ころもがわむらの区域を除く）で産出されたタケノコについて、出荷制限の解除を指示しました。

１　岩手県に対し指示されていた出荷制限の品目のうち、奥州市（旧前沢町及び旧衣川村の区域を除く）で産出されたタケノコについて、本日、出荷制限が解除されました。

（１）本日付けの原子力災害対策本部から岩手県への指示は別添１のとおりです。

（２）岩手県の申請は、別添２のとおりです。

２　なお、原子力災害対策特別措置法の規定に基づく食品の出荷制限及び摂取制限の指示の一覧は、参考資料のとおりです。

参考１

原子力災害対策特別措置法 －抄－

（原子力災害対策本部長の権限）

第２０条 （略）

２ 原子力災害対策本部長は、当該原子力災害対策本部の緊急事態応急対策実施区域及び原子力災害事後対策実施区域における緊急事態応急対策等を的確かつ迅速に実施するため特に必要があると認めるときは、その必要な限度において、関係指定行政機関の長及び関係指定地方行政機関の長並びに前条の規定により権限を委任された当該指定行政機関の職員及び当該指定地方行政機関の職員、地方公共団体の長その他の執行機関、指定公共機関及び指定地方公共機関並びに原子力事業者に対し、必要な指示をすることができる。

３～１０ （略）

参考２

「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」（原子力災害対策本部：最終改正 令和3年3月26日）

（別添１）<https://www.mhlw.go.jp/content/11135000/000913317.pdf>

（別添２）<https://www.mhlw.go.jp/content/11135000/000913318.pdf>

（参考資料）<https://www.mhlw.go.jp/content/11135000/000913319.pdf>

**■食品中の放射性物質の検査結果について（１２７９報）　2022/3/17**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24246.html>

**■***NEW***食品安全情報（微生物）No.6/ 2022（2022.03.16）　2022/3/16**

[http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202206m.pdf](http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202206m.pdf%20)

**目次**

**【世界保健機関（WHO）】**

1. 食品安全のための新たな実践共同体（COP：Community of Practice）により知識の共有および実践の向上が促される

**【米国食品医薬品局（US FDA）】**

1. 米国食品医薬品局（US FDA）が乳幼児用調製粉乳に関連して発生しているクロノバクター（Cronobacter sakazakii）感染に関する苦情を調査（2022 年 3 月 9 日、2 月 28日、25 日、20 日付更新情報、17 日付初発情報）

**【米国食品医薬品局食品安全応用栄養センター（US FDA CFSAN）】**

1. 米国食品医薬品局（US FDA）が卵および卵製品の安全性向上のための新たな規制プログラムの基準「ERPS：Egg Regulatory Program Standards」を発表

**【米国疾病予防管理センター（US CDC）】**

1. 乳幼児用調製粉乳に関連して発生しているクロノバクター（Cronobacter）感染症（2022年 2 月 28 日付更新情報）

**【欧州疾病予防管理センター（ECDC）】**

1. ツイッターを利用して公衆衛生上の脅威を早期に探知するためのツール「epitweetr」の更新版を欧州疾病予防管理センター（ECDC）が公開

**【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】**

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

**【欧州食品安全機関（EFSA）】**

1. 伝達性海綿状脳症（TSE）の 2020 年のサーベイランス結果に関する欧州連合（EU）要約報告書

**【英国食品基準庁（UK FSA）】**

1. 食品に関する消費者調査「Food and You 2」：第 1 回および第 2 回調査でのウェールズの主な結果に関する報告書

**【スコットランド食品基準庁（FSS）】**

1. サルモネラ感染の拡大を防ぐため英国がリトアニアからのすべてのペットフード用げっ歯類の輸入を禁止

**【ProMED-mail】**

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報（08）

**■***NEW***食品安全情報（化学物質）No.6/ 2022（2022.03.16）　2022/3/16**

[http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202206c.pdf](http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202206c.pdf%20)

**＜注目記事＞**

**【BfR】 BfR は「pop-it fidget toys（プッシュポップ）」で調理しないよう助言する**

子供達の間で、柔らかい気泡が入っていて押すことのできるカラフルなシリコーン型の 「pop-it fidget toys（プッシュポップ）」という玩具が大人気である。この製品を使った小 さなケーキやチョコレートプラリネなどのお菓子の作り方を紹介する説明書や動画がイン ターネット上に広く掲載されている。しかし、この玩具は食品と接触することを意図して 製造されたものではなく、調理に使うとヒトの健康に有害な物質が食品に移行する可能性 がある。そのためBfR（ドイツ連邦リスクアセスメント研究所）は、プッシュポップ玩 具を調理には使用しないよう助言する。 ＊ポイント： 日本ではプッシュポップ、プッシュポップバブル、ポップイットなどの名 称で販売されているスクイーズ玩具です。日本でも人気のようで、多くのカラフルで可愛い製品が販売されています。ネット検索すると、ドイツと同じくお菓子作りの動画も出て くるので注意が必要です。

**【EFSA】 EFSA は飼料添加物エトキシキンの安全性を再評価する**

欧州食品安全機関（EFSA）が飼料添加物エトキシキンの再評価を実施した。エトキシ キンを提案されている濃度 50 mg/kg 完全飼料で使用した場合に、すべての動物種に安全 だと考えられる。しかし変異原性の可能性のある p-フェネチジンが不純物として存在する ため、寿命が長い動物や繁殖用の動物の飼料中の添加物についての安全量は特定できなか った。また、乳生産の反芻動物を除く、すべての動物種に対してエトキシキンを 50 mg/kg 完全飼料の最大総濃度で添加した場合の残留による消費者へのリスクは生じない。ただ し、これはエトキシキンとその変換生成物のみの推定に基づく。添加物には p-フェネチジ ンが存在しており、そのデータ不足のため評価できず、消費者への安全性に関する結論は 出せなかった。

＊ポイント： EFSA の 2015 年の評価では、さまざまなデータの不足により、エトキ シキンを飼料添加物として使用した場合の動物やその消費者、環境への安全性について結 論は出せないと報告していました。そのため飼料添加物としての使用認可が 2017 年 6 月 に取り下げられました。今回の評価は、その後に追加データとともに 4 件の認可申請が提 出されたために実施しています。今回の評価で不純物 p-フェネチジンについてはデータ不 足が再度指摘されましたが、エトキシキンとその酸化で生じる変換生成物による安全性に ついてはある程度の結論が出されたので、この評価結果を受けた欧州委員会の判断次第で は、飼料添加物としての使用が限定的に変更される可能性もあるかもしれません。

**【EFSA】 2-クロロエタノールの毒性に関する BfR の意見についての声明**

EFSA がエチレンオキシドの代謝物である 2-クロロエタノールの遺伝毒性について検討 したが、BfR による評価（2021 年）以降の追加データを考慮しても結論は出なかった。 そのため2-クロロエタノールの遺伝毒性の可能性が明確になるまで、EFSA はリスク評 価の参照点や健康影響に基づく指標値の設定は助言せず、in vitro 遺伝子変異や in vitro 小核試験の実施を勧める。

**3.****[食品安全委員会関係](#食品安全委員会関係)**　<https://www.fsc.go.jp/>

**■***NEW***食品安全委員会（第853回）の開催について　2022/3/24**

**最近、発表が遅く、締め切りが早くなっております。参加をご希望の場合は、各自ご確認ください**

標記会合を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、本会合については、傍聴者を入れずに開催いたしますが、本会合の様子については、下記４のとおり、web上で動画配信することといたしました。

議事録につきましては、後日、食品安全委員会Webサイト

（<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>） に掲載いたします。大変御迷惑をお掛けいたしますが、ご理解のほど、何卒よろしくお願いいたします。

記

１．開催日時：令和4年3月29日（火）　１４：００〜

２．開催場所：食品安全委員会 大会議室　（港区赤坂５−２−２０ 赤坂パークビル２２階)

３．議事

　（１）食品安全基本法第２４条の規定に基づく委員会の意見の聴取に関するリスク管理機関からの説明について

　　　・農薬 ６品目

　　　　イソピラザム、ピリダクロメチル、ピリダリル、フルジオキソニル、ホスチアゼート、ヨウ化メチル（厚生労働省からの説明）

　　　・遺伝子組換え食品等 ２品目

　　　　コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ（DP915635

　　　　　）（厚生労働省及び農林水産省からの説明）

（２）食品安全基本法第２４条の規定に基づく委員会の意見について

　　　・農薬「メパニピリム」に係る食品健康影響評価について

（３）令和４年度食品安全委員会運営計画（案）について

（４）その他

４．動画視聴について：本会合の様子の動画視聴を希望される方は、3月28日（月）12時までに内閣府共通意見等登録システム（<https://form.cao.go.jp/shokuhin/opinion-1176.html>にて、氏名、所属、電話番号及びメールアドレスを御登録いただきますようお願いいたします。視聴をお申し込みいただいた方には、御登録いただいたメールアドレス宛てに、視聴に必要なURLを、3月29日（火）12時までに御連絡いたします。なお、当日の資料につきましては、同日14時までに食品安全委員会Webサイト

（<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>）に掲載いたします。

<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/annai/annai804.html>

<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/annai/> 　**←発表がない場合はこちらからご確認ください**

**会議の結果は下記から確認できます**

**★***Link***食品安全委員会　開催実績リンク　開催日時、配付資料、議事録等**

<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>

　<https://www.fsc.go.jp/iken-bosyu/pc1_hisiryou_muramidase_030512.html>

**■***NEW***食品安全関係情報更新（令和4年2月26日から令和4年3月11日）2022/3/24**

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/search?year=&from=struct&from_year=2022&from_month=2&from_day=26&to=struct&to_year=2022&to_month=3&to_day=11&max=100>

**４．****[農水省関係](C:\\Users\\shokkakyo\\AppData\\Roaming\\Microsoft\\Word\\農水省関係)**<https://www.maff.go.jp/>

**■***NEW***ウクライナ情勢に関する農林水産業・食品関連産業事業者向け相談窓口**

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/sodan.html>

**■***NEW***新たな「水産基本計画」の決定について　2022/3/25**

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/press/kikaku/220325.html>

**■***NEW***新たな「漁港漁場整備長期計画」について　2022/3/25**

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/press/keikaku/220325.html>

**■***NEW***令和3年度福島県産農産物等流通実態調査結果について　2022/3/25**

<https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/ryutu/220325.html>

　　農林水産省は、福島県産農産物等の販売不振の実態と要因を明らかにするため、福島復興再生特別措置法に基づき、福島県産農産物等の生産・流通・販売段階の実態を調査し、取りまとめましたので、公表します。

1.調査概要

令和3年度は以下の点について調査を行いました。

(1)重点6品目（米、牛肉、桃、あんぽ柿、ピーマン、ヒラメ）の出荷量と価格の推移、流通段階ごとの価格形成事例

　 (2)福島県産品に対する納入業者と納入先の認識の齟齬

　(3)福島県産品の取扱いを拡大するためのマーケティング実証

　(4)水産物の漁獲量の変動による価格動向の分析

2.調査結果

令和3年度調査で次の実態が明らかになりました。

　 (1)重点6品目（米、牛肉、桃、あんぽ柿、ピーマン、ヒラメ）について、

　 ア 出荷量は震災前の水準まで依然回復していない。

　 イ 全国平均との価格差は徐々に縮小しているが、 牛肉、桃など全国平均を下回る品目も見られる。

　(2)仲卸業者等の「納入業者」が、納入先の福島県産品の取扱姿勢を実態よりも低く評価している認識の齟齬は総じてやや改善。

　(3)福島県産品の価格回復を図っていくには、対象品目ごとに課題を調査・整理し、仮説を立ててマーケティング活動に取り組むことが重要。

　 (4)福島県産水産物の価格は、流通量よりも季節性が関与していることが明らかになった。また、流通事業者の要望する漁獲量増加や安定供給に向けて、関係者が連携し、出荷量の増大に計画的に取り組むことが大切。

3.関連URL

調査結果の詳細については、以下リンクに掲載しています。

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/ryutu/R3kekka.html>

**■***NEW***宮城県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認（国内17例目）について　2022/3/25**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220325_3.html>

　　本日（3月25日（金曜日））、宮城県石巻市の肉用種鶏農場において、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認（今シーズン国内17例目）されました。

当該農場は、農家から通報があった時点から飼養家きん等の移動を自粛しています。

なお、我が国の現状において、鶏肉や鶏卵等を食べることにより、ヒトが鳥インフルエンザウイルスに感染する可能性はないと考えております。

現場での取材は、本病のまん延を引き起こすおそれがあること、農家の方のプライバシーを侵害しかねないことから、厳に慎むよう御協力をお願いいたします。

1.農場の概要

所在地：宮城県石巻市

飼養状況：肉用種鶏（約3.2万羽）

2.経緯

（1）昨日（3月24日（木曜日））、宮城県は、同県石巻市の農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受けて、当該農場に対し移動の自粛を要請するとともに農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該鶏について鳥インフルエンザの簡易検査を実施し陽性であることが判明しました。

（3）本日（3月25日（金曜日））、当該鶏について遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***日米貿易協定に基づく牛肉セーフガードに関する協議の実質合意について　2022/3/24**

<https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu_kokusai/keizai/220324.html>

　　今般、日本政府と米国政府との間で継続されてきた日米貿易協定に基づく牛肉セーフガードに関する協議において、実質合意に至りました。

日米貿易協定に基づく牛肉セーフガードに関する協議の実質合意について

本協議は、2021年3月18日に我が国において日米貿易協定に基づき米国産牛肉に対するセーフガード措置がとられたことを受けて、2019年10月7日に日米貿易協定に関連して作成された二国間の交換公文に基づき開始されたものであり、その後の累次にわたる協議を経て、今般、実質合意に至ったものです。

添付資料

牛肉セーフガード協議に関する合意の概要

<https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu_kokusai/keizai/attach/pdf/220324-2.pdf>

**■***NEW***フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/3/24**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220324_1.html>

　　農林水産省は、3月22日（火曜日）にフランスのイル・エ・ヴィレーヌ県からの生きた家きん家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。

1.経緯

フランスのイル・エ・ヴィレーヌ県の家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された旨、フランス家畜衛生当局から情報提供がありました。

2.対応

フランス家畜衛生当局からの情報提供を受け、本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年3月22日（火曜日）にイル・エ・ヴィレーヌ県からの生きた家きん、家きん肉等の輸入を一時停止しました（※）。

**令和2年11月18日付けプレスリリース「フランスのオート・コルス県からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/201118_3.html>

**令和2年11月24日付けプレスリリース「フランスのイヴリーヌ県からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/201124_6.html>

**令和3年2月1日付けプレスリリース「フランスのアルデンヌ県からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/210201.html>

**令和3年3月17日付けプレスリリース「フランスのオー・ラン県からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/210317_3.html>

**令和3年4月26日付けプレスリリース「フランスのバ・ラン県からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/210426.html>

**令和3年9月21日付けプレスリリース「フランスのエーヌ県からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/210921.html>

**令和3年11月29日付けプレスリリース「フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/211129_2.html>

**令和3年12月20日付けプレスリリース「フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/211220.html>

**令和3年12月23日付けプレスリリース「フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/211223_3.html>

**令和4年1月5日付けプレスリリース「フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220105_5.html>

**令和4年1月17日付けプレスリリース「フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220117.html>

**令和4年2月14日付けプレスリリース「フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220214_3.html>

**令和4年2月18日付けプレスリリース「フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220218_9.html>

**令和4年2月21日付けプレスリリース「フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220221.html>

**令和4年3月7日付けプレスリリース「フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220307.html>

**令和4年3月16日付けプレスリリース「フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停**

**止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220316_1.html>

**令和4年3月17日付けプレスリリース「フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220317_4.html>

**■***NEW***米国からの家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/3/24**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220324.html>

　農林水産省は、3月24日（木曜日）にアメリカ合衆国（以下「米国」という。）ネブラスカ州からの家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。

1.経緯

米国ネブラスカ州の家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザ（H5N1亜型）の発生が確認された旨、米国家畜衛生当局から情報提供がありました。

2.対応

米国家畜衛生当局からの情報提供を受け、本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年3月24日（木曜日）にネブラスカ州からの家きん肉等の輸入を以下のように一時停止（※1）しました。

（参考）ネブラスカ州からの生きた家きんは令和4年3月18日以降、一時輸入停止措置をしています。

【家きん肉、家きん卵等（※2）】

ネブラスカ州バトラー郡（発生郡）

※1 発生国又は地域から生きた家きん、家きん肉、家きん卵等の輸入を停止するのは、我が国で飼養されている生きた家きんがウイルスに感染することを防止するためであり、食品衛生のためではありません。

※2 米国家畜衛生当局から提供された情報により、当該発生が野鳥に由来するものであって、防疫措置により適切に郡内で封じ込められていることが確認できたため、二国間で設定した輸入条件について基づき、本措置の対象範囲を発生郡としています。

**令和3年10月8日付けプレスリリース「米国カリフォルニア州からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/211008.html>

**令和3年11月29日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/211129_3.html>

**令和4年1月13日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220113_7.html>

**令和4年2月10日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220210_8.html>

**令和4年2月17日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220217.html>

令和4年2月18日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220218_8.html>

令和4年2月21日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220221_2.html>

**令和4年2月22日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220222_5.html>

**令和4年2月25日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220225.html>

**令和4年3月4日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220304.html>

**令和4年3月9日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220309.html>

**令和4年3月11日付けプレスリリース「米国からの家きん肉等の一時輸入停止について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220311.html>

**令和4年3月15日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220315.html>

**令和4年3月16日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220316.html>

**令和4年3月17日付けプレスリリース「米国からの家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220317.html>

**令和4年3月18日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220318_4.html>

**令和4年3月22日付けプレスリリース「米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220322_2.html>

**令和4年3月23日付けプレスリリース「米国からの家きん肉等の一時輸入停止措置について」**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220323.html>

**■***NEW***米国からの家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/3/23**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220323.html>

　　農林水産省は、3月23日（水曜日）にアメリカ合衆国（以下「米国」という。）サウスダコタ州からの家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。

1.経緯

米国サウスダコタ州の家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザ（H5N1亜型）の発生が確認された旨、米国家畜衛生当局から情報提供がありました。

2.対応

米国家畜衛生当局からの情報提供を受け、本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年3月23日（水曜日）にサウスダコタ州からの家きん肉等の輸入を以下のように一時停止（※1）しました。

（参考）サウスダコタ州からの生きた家きんは令和4年3月7日以降、一時輸入停止措置をしています。

【家きん肉、家きん卵等（※2）】

サウスダコタ州ハンソン郡、キングスベリー郡及びハッチンソン郡（発生郡）

※1 発生国又は地域から生きた家きん、家きん肉、家きん卵等の輸入を停止するのは、我が国で飼養されている生きた家きんがウイルスに感染することを防止するためであり、食品衛生のためではありません。

※2 米国家畜衛生当局から提供された情報により、当該発生が野鳥に由来するものであって、防疫措置により適切に郡内で封じ込められていることが確認できたため、二国間で設定した輸入条件について基づき、本措置の対象範囲を発生郡としています。

**■***NEW***米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/3/22**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220322_2.html>

　　農林水産省は、3月20日（日曜日）にアメリカ合衆国（以下「米国」という。）ニューハンプシャー州及びデラウェア州からの、3月22日（火曜日）にアイオワ州及びカンザス州からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。

1.経緯

米国ニューハンプシャー州、デラウェア州、アイオワ州及びカンザス州の家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザ（H5N1亜型）の発生が確認された旨、米国家畜衛生当局から情報提供がありました。

2.対応

米国家畜衛生当局からの情報提供を受け、本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年3月20日（日曜日）にニューハンプシャー州及びデラウェア州からの、令和4年3月22日（火曜日）にアイオワ州及びカンザス州からの生きた家きん、家きん肉等の輸入を以下のように一時停止（※1）しました。

【生きた家きん（家きんの初生ひな及び種卵）】

ニューハンプシャー州全域

（参考）デラウェア州は令和4年2月24日以降、アイオワ州は令和4年3月3日以降、カンザス州は令和4年3月15日以降、一時輸入停止措置をしています。

【家きん肉、家きん卵等（※2）】

ニューハンプシャー州ロッキンガム郡、デラウェア州ケント郡、アイオワ州ウォーレン郡並びにカンザス州セジウィック郡及びディキンソン郡（発生郡）

※1 発生国又は地域から生きた家きん、家きん肉、家きん卵等の輸入を停止するのは、我が国で飼養されている生きた家きんがウイルスに感染することを防止するためであり、食品衛生のためではありません。

※2 米国家畜衛生当局から提供された情報により、当該発生が野鳥に由来するものであって、防疫措置により適切に郡内で封じ込められていることが確認できたため、二国間で設定した輸入条件について基づき、本措置の対象範囲を発生郡としています。

**■***NEW***シンガポール向け家きん由来製品の輸出再開について（千葉県及び岩手県）　2022/3/22**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220322.html>

　　本日より、千葉県及び岩手県からのシンガポール向けの家きん由来製品の輸出が再開されましたのでお知らせします。

両県からの輸出再開をもって、全国からのシンガポールへの家きん由来製品輸出が可能となりました。

概要

令和3年11月10日の秋田県における高病原性鳥インフルエンザ発生以降、輸出相手国・地域との間で地域主義の適用について協議を行い、主な輸出先である香港やシンガポール当局からは非発生県からの家きん由来製品の輸出継続が認められています。

これまで、高病原性鳥インフルエンザが発生した10県のうち、8県についてシンガポール当局から清浄性が認められ、輸出を再開してきたところ、今般、千葉県及び岩手県についても清浄性が認められ、当該県からの家きん由来製品の輸出再開について合意しました。

これにより、本日から、動物検疫所においてシンガポール向けの輸出に必要な輸出検疫証明書の交付を再開しました。

両県からの輸出再開をもって、全国からのシンガポールへの家きん由来製品輸出が可能となりました。

＜2021年1-12月の輸出額＞

シンガポール向け鶏肉：輸出実績なし（鶏肉の総輸出額13.0億円）

シンガポール向け鶏卵：1.3億円（鶏卵の総輸出額58.7億円）

出典：財務省「貿易統計」

＜過去の経緯＞

令和3年11月10日：日本全国からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和3年11月12日：秋田県以外で生産及び処理された家きん由来製品のシンガポール向け輸出を再開

令和3年12月5日：千葉県からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年2月12日：岩手県からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年1月26日：秋田県、兵庫県、熊本県、埼玉県、広島県及び青森県で生産及び処理された家きん由来製品のシンガポール向け輸出を再開

令和4年2月22日：鹿児島県及び愛媛県で生産及び処理された家きん由来製品のシンガポール向け輸出を再開

令和4年3月22日：千葉県及び岩手県で生産及び処理された家きん由来製品のシンガポール向け輸出を再開

**■***NEW***インド向け日本産りんご生果実の輸出が解禁となります　2022/3/19**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/220319.html>

**今般、インドの植物検疫当局との間で、日本産りんご生果実の同国への輸出に当たっての植物検疫条件について合意に達し、同国へのりんご生果実の輸出が解禁されましたのでお知らせします。**

**概要**

**インドは、日本産りんご生果実について、インドが侵入を警戒する病害虫が我が国で発生していることを理由に、これまで輸入を禁止していました。**

**農林水産省は、産地からの要望を踏まえ、りんご生果実の輸出が可能となるように、インドの植物検疫当局と技術的協議を積み重ねてきました。**

**その結果、今般、日本産りんごに関する植物検疫条件に合意し、本年産の収穫シーズン以降、この条件を満たす日本産りんご生果実の輸出が可能となります。**

**主な植物検疫条件は以下のとおりです。詳細は別添概要をご覧ください。**

**(1)登録生産園地での栽培**

**(2)登録選果こん包施設での選果・こん包**

**(3)消毒処理の実施（低温処理又は臭化メチルくん蒸）**

**(4)原則年1回のインド側検査官による査察**

**(5)輸出検査の実施**

**参考**

**インドへの輸出を検討される方は、最寄りの植物防疫所にお問い合わせいただくようお願いします。**

**植物防疫所ホームページ**

<https://www.maff.go.jp/pps/j/guidance/outline/index.html>

**添付資料**

**インド向け日本産りんご生果実に係る輸出検疫条件の概要**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/attach/pdf/220319-1.pdf>

**■***NEW***米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/3/18**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220318_4.html>

**農林水産省は、3月17日（木曜日）にアメリカ合衆国（以下「米国」という。）メイン州からの、3月18日（金曜日）にネブラスカ州からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。**

**1.経緯**

**米国メイン州及びネブラスカ州の家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザ（H5N1亜型）の発生が確認された旨、米国家畜衛生当局から情報提供がありました。**

**2.対応**

**米国家畜衛生当局からの情報提供を受け、本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年3月17日（木曜日）にメイン州からの、令和4年3月18日（金曜日）にネブラスカ州からの生きた家きん、家きん肉等の輸入を以下のように一時停止（※1）しました。**

**【生きた家きん（家きんの初生ひな及び種卵）】**

**ネブラスカ州全域**

**（参考）メイン州は令和4年2月21日以降、一時輸入停止措置をしています。**

**【家きん肉、家きん卵等（※2）】**

**メイン州ヨーク郡及びネブラスカ州メリック郡（発生郡）**

**■***NEW***アサリの産地表示適正化のための対策について　2022/3/18**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/kansa/220318.html>

**令和4年2月1日に農林水産省が公表した「広域小売店におけるあさりの産地表示の実態に関する調査結果概要」において、漁獲量を大幅に上回る量の熊本県産アサリが販売されていることが推測され、科学的分析の結果、農林水産省が買い上げた熊本県産のアサリのほとんどが「外国産アサリが混入されている可能性が高い」と判定されました。**

**このことを受け、消費者庁及び農林水産省は、食品表示の適正化を通じて、消費者の食品表示への信頼を確保できるよう、熊本県や警察など関係機関と連携し、アサリの産地表示適正化のための対策として、以下の対応を行います。**

**1.原産地表示のいわゆる「長いところルール」の適用の厳格化 【資料1】**

**不適正な表示を防ぐ観点から、食品表示基準Q&Aを改正し、いわゆる「長いところルール」の適用の厳格化を行います。**

**(1) 出荷調整用その他の目的のため、貝類を短期間一定の場所に保存することを「蓄養」とした上で、「蓄養」がいわゆる「長いところルール」の算定に含まれないことを明確化。**

**(2) 輸入したアサリの原産地は、蓄養の有無にかかわらず輸出国となる。なお、例外として輸入した稚貝のアサリを区画漁業権に基づき1年半以上(※)育成（養殖）し、育成等に関する根拠書類を保存している場合には、国内の育成地を原産地として表示することができる。**

**(※)輸入したアサリの成育期間の確認が困難なため、アサリの採捕までの一般的な所要年数が3年程度であることを踏まえた整理。**

**(3) 国内の他地域から稚貝のアサリを導入する場合、輸入したアサリを放流したことと区別するため、稚貝のアサリの根拠書類を保存する。**

**2.アサリの産地表示に係る状況の公表**

**本対策の効果を測るため、改正Q&Aの施行1か月後を目途に、アサリの産地表示の状況に関する点検調査を行い、結果を公表するとともに、引き続き疑義事案調査を進める。**

**3.熊本県産アサリのブランド化支援 【資料2】**

**熊本県の「純県産アサリの産地保証制度」による取組に対して支援を行うことは可能。**

**（添付資料）**

**アサリの産地表示適正化のための対策**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/kansa/attach/pdf/220318-3.pdf>

**【資料1】アサリの原産地表示に係るQ＆A案**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/kansa/attach/pdf/220318-2.pdf>

**【資料2】バリューチェーン連携推進事業**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/kansa/attach/pdf/220318-1.pdf>

**【参考】アサリの原産地表示ルールの厳格化**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/kansa/attach/pdf/220318-4.pdf>

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション

自動的に生成された説明

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション

自動的に生成された説明

テーブル

自動的に生成された説明

**■***NEW***広域小売店におけるあさりの産地表示の点検調査結果について　2022/3/18**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/kansa/220318_6.html>

　農林水産省は「広域小売店におけるあさりの産地表示の点検調査」の結果を取りまとめましたので、公表します。

1.調査の背景及び目的

農林水産省は、令和4年2月1日、「広域小売店におけるあさりの産地表示の実態に関する調査」（以下「実態調査」という。）において、全国の広域小売店で「熊本県産」として販売されているあさりに外国産あさりが混入している疑いがあると考えられるとの結果を公表するとともに食品事業者に対し、水産物の生産、流通及び販売に携わる団体等を通じ、産地伝達の確認や法令遵守の徹底を要請しました。

また、同日、熊本県は「熊本県産アサリ緊急出荷停止宣言」を発出しました。

これらを背景としたあさりの産地表示の現状を確認するため、全国の広域小売店において、2月16日から22日までの間、調査（以下「点検調査」という。）を行いました。

＊広域小売店：事業所、店舗等が複数の都道府県に所在する事業者

2.結果概要

点検調査の結果、「熊本県産」と表示されたあさりの販売は確認されず、販売されているあさりの中で「中国産」と表示されたあさりの割合が全体の7割に達しました。また、あさりを販売する店舗の割合が減少していることを確認しました。

3.今後の対応

農林水産省では、引き続き、以下のとおり関係機関と連携し、実態調査により確認した疑義の解明に取り組みます。

(1)実態調査により確認した原産地表示の疑義について、関係自治体とも連携しながら、速やかに立入検査を実施するなど徹底した疑義解明を行い、不適正な行為を確認した場合は、厳正な措置を行います。

(2)食品表示法違反の行為を確認した場合などには、食品表示連絡会議を構成する各行政機関（消費者庁、警察庁、国税庁、農林水産省）で連携しつつ、厳正な対応に努めてまいります。

また、今般公表された「アサリの産地表示適正化のための対策」の効果を測るため、改正された食品表示基準Q&Aの施行1か月後を目途に、再度点検調査を行います。

公表資料

＜添付資料＞

広域小売店におけるあさりの産地表示の点検調査結果（令和4年3月18日訂正）

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/kansa/attach/pdf/220318_6-2.pdf>

調査の結果を農林水産省ホームページに掲載しております。

[https://www.maff.go.jp/j/syouan/kanshitoppage.html#tyousa](https://www.maff.go.jp/j/syouan/kanshitoppage.html%23tyousa)

**■香港向け家きん由来製品の輸出再開について（千葉県及び岩手県）　2022/3/18**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220318.html>

　　本日より、千葉県及び岩手県からの香港向けの家きん由来製品の輸出が再開されましたのでお知らせします。

両県からの輸出再開をもって、全国からの香港への家きん由来製品輸出が可能となりました。

概要

令和3年11月10日の秋田県における高病原性鳥インフルエンザ発生以降、輸出相手国・地域との間で地域主義の適用について協議を行い、主な輸出先である香港やシンガポール当局からは非発生県からの家きん由来製品の輸出継続が認められています。

これまで、高病原性鳥インフルエンザが発生した10県のうち、8県について香港当局から清浄性が認められ、輸出を再開してきたところ、今般、千葉県及び岩手県についても清浄性が認められ、当該県からの家きん由来製品の輸出再開について合意しました。

これにより、本日から、動物検疫所において香港向けの輸出に必要な輸出検疫証明書の交付を再開しました。

両県からの輸出再開をもって、全国からの香港への家きん由来製品輸出が可能となりました。

＜2021年1-12月の輸出額＞

香港向け鶏肉：9.8億円（鶏肉の総輸出額13.0億円）

香港向け鶏卵：57.3億円（鶏卵の総輸出額58.7億円）

出典：財務省「貿易統計」

＜過去の経緯＞

令和3年11月10日：日本全国からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和3年11月10日：秋田県以外で生産及び処理された家きん由来製品の香港向け輸出を再開

令和3年12月5日：千葉県からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年2月12日：岩手県からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年1月31日：秋田県、兵庫県、熊本県、埼玉県、広島県及び青森県で生産及び処理された家きん由来製品の香港向け輸出を再開

令和4年3月4日：鹿児島県及び愛媛県で生産及び処理された家きん由来製品の香港向け輸出を再開

令和4年3月18日：千葉県及び岩手県で生産及び処理された家きん由来製品の香港向け輸出を再開

**■初！和食文化継承のための小学生向け教材”わたしたちと「和食」”が完成　2022/3/14**

<https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/wasyoku/220314.html>

**■和食×人材育成トークショー”UMAMIのある話”3月14日から配信開始！　2022/3/14**

<https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/wasyoku/220314_12.html>

**■第36回FAOアジア・太平洋地域総会(閣僚級会合)の結果概要について　2022/3/12**

<https://www.maff.go.jp/j/press/y_kokusai/kikou/220312.html>

**５.****[消費者庁関連](#消費者庁関連)**

<https://www.caa.go.jp/>

**「消費者庁」になりすましたTwitter、Facebookアカウントにご注意ください。**

**■***NEW***「磁石」や「吸水樹脂ボール」の誤飲に注意! - 飲み込んだ後、開腹手術を要する事故が発生 –　2022/3/24**

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_058/>

　　消費者安全調査委員会において、「ネオジム磁石製のマグネットセットによる子どもの誤飲事故」に係る事故等原因調査報告書が取りまとめられ、消費者庁長官に対し意見が提出されました。

また、国民生活センターにおいて、「乳幼児による水で膨らむボール状の樹脂製玩具」に係る注意喚起が実施され、消費者庁に対し行政要望が提出されました。

こうした意見や要望を受け、消費者庁では「磁石」や「吸水樹脂ボール(水で膨らむボール状の樹脂製製品(玩具を含む))」などの事故について、事故防止の観点から誤飲した場合の危険性、身近にある製品例、事故事例、注意ポイントなどをまとめました。

子どもの誤飲誤飲事故を防ぐ注意ポイント

誤飲した物そのものが尖っていたり、毒性がある場合はもちろんですが、「磁石」や「吸水樹脂ボール」のように、その特性や誤飲後の体の中での変化等により、子どもにとって非常に危険になるものがあります。子どもの身の回りにある物の危険性を認識することに加えて、子どもの発達や行動特性を知り、事故を防ぐための環境を作りましょう。

〇3歳児の口の大きさは約4cm。これより小さいものは口に入ります。

〇小さな子どもはつかんだものは、何でも口に入れます。

〇子どもは手に持ったものを、落としたり、叩いたり、投げたりします。

このように、子どもが扱う製品は、大人向けの製品とは異なる使用状況が考えられます。以下の点について注意しましょう。

・玩具を購入する際は、子どもの発達や安全に配慮されたものを選びましょう。

・玩具の対象年齢に十分に注意しましょう。

・日頃から破損などがないか点検しましょう。

・設置や保管は手の届かない場所を選びましょう。

・中古品を入手する際には、製品の情報・状態をよく確認しましょう。

将来の事故防止のために

被害の拡大や、同種・類似の事故を防ぐために、消費者庁では消費者が製品やサービスを利用していて発生した事故の情報等を一元的に集約しています。集約・分析された情報は、消費者に対する注意喚起情報として公表されるほか、情報を根拠に行政において必要な対応がとられる仕組みになっています。事故の当事者となった場合には治療することが最も大事ですが、この仕組みを生かすためにも適切な窓口への報告と情報提供への協力をお願いします。

消費者庁公表資料

2022年3月24日

「磁石」や「吸水樹脂ボール」の誤飲に注意!-飲み込んだ後、開腹手術を要する事故が発生-

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_058/assets/consumer_safety_cms205_220324_01.pdf>



**■***NEW***ネオジム磁石製のマグネットセットによる子どもの誤飲事故　2022/3/24**

<https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_021/>

**■***NEW***株式会社EE21に対する景品表示法に基づく措置命令について　2022/3/24**

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/028011/>

　　消費者庁は、本日、株式会社EE21に対し、同社が「未来ケアカレッジ」の名称で供給する「介護職員初任者研修」と称する役務に係る表示について、消費者庁及び公正取引委員会(公正取引委員会事務総局近畿中国四国事務所)の調査の結果を踏まえ、景品表示法に違反する行為(同法第5条第2号(有利誤認)に該当)が認められたことから、同法第7条第1項の規定に基づき、措置命令を行いました。

公表資料

株式会社EE21に対する景品表示法に基づく措置命令について

<https://www.caa.go.jp/notice/assets/representation_220324_01.pdf>

**■***NEW***アサリの産地表示適正化のための対策について　2022/3/18**

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/027959/>

**■第8回「消費者保護のための啓発用デジタル教材開発に向けた有識者会議」の会議資料を公表しました　2022/3/18**

<https://www.caa.go.jp/policies/future/meeting_materials/review_meeting_002/>

**■地方連携推進フォーラム2022in岡山における「成年年齢引下げに向けた4省庁連携プログラム」について(2022年2月27日(日))**

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\_education/consumer\_education/lower\_the\_age\_of\_adulthood/event/#forum](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/consumer_education/lower_the_age_of_adulthood/event/%23forum)

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/consumer_education/lower_the_age_of_adulthood/event/movie_002/>

**■製造物責任(PL)法に基づく訴訟情報の収集　2022/3/15**

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/other/product_liability_act/>

**■株式会社セドナエンタープライズに対する景品表示法に基づく措置命令について　2022/3/15**

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/027909/>

　　消費者庁は、本日、株式会社セドナエンタープライズに対し、同社が供給する「脱毛ラボ ホームエディション」と称する商品に係る表示について、景品表示法に違反する行為(同法第5条第2号(有利誤認)に該当)が認められたことから、同法第7条第1項の規定に基づき、措置命令を行いました。

公表資料

株式会社セドナエンタープライズに対する景品表示法に基づく措置命令について

<https://www.caa.go.jp/notice/assets/representation_220315_1.pdf>

**消費者庁リコール情報サイト**<https://www.recall.caa.go.jp/>

**（回収中か否かに関わらず、だいたい一回の掲載で消去します）**

**★ドンク「バターサンドブレッド（ホイップ）」 - 返金／回収　アレルゲン「卵」の表示欠落　2022/3/24**

**★久野貿易商会「水で膨らむ不思議なボール」 - 返金／回収　対象年齢未満のお子様の誤飲による重篤な事故が発生したことが判明　2022/3/24**

**★ハイブ「簡単！12種のスパイスで漬ける ピクルス液」 - 返金／回収　賞味期限の誤表示（誤：2023/05/05、正：2022/05/05）　2022/3/23**

**★木内製菓「よもぎ粒あん団子」 - 返金／回収　消費期限の誤表示（誤：22.3.27、正：22.3.20）　2022/3/23**

**★山口油屋福太郎「めんべい開運箱」 - 返金／回収　アレルゲン「小麦・卵・乳成分」の表示欠落　2022/3/22**

**★ビットワークス「クルール 青りんごゼリー」 - 交換／回収　アレルゲン「りんご」の表示欠落　2022/3/22**

**★山本食品「たけのこご飯の素」 - 返金／回収　アレルゲン「小麦・大豆」の表示欠落　2022/3/22**

**★むそう商事「有機フルーツオートミール ワイルドベリー」 - 返金／回収　賞味期限の誤表示（誤：2023.7.23、正：2022.7.23）　2022/3/18**

**★アサヒグループ食品「1歳からのおやつ+DHA 黒豆きなこクッキー」 - 回収　一部商品に微細な金属異物が混入していることが判明　2022/3/17**

**★ファーストデリカ「辛子酢味噌で食べる豚軟骨、ピリ辛だれで食べる豚軟骨」 - 返金／回収アレルゲン「小麦」の表示欠落　2022/3/17**

**６.** **[食中毒・感染症](#食中毒・感染症)**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8068a715873c6ec58e1b8a24b767bfef42745261>

**■***NEW***インフルエンザ（総合ページ）**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html>

**★ウイルスによる食中毒★**

**■食中毒の発生について～板橋区内の障害福祉施設で提供された食事で発生した食中毒～　2022/3/24　板橋区**

**ノロウイルス**

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/hodo/saishin/pressshokuhin220324.html>

　【探知】令和4年3月14日（月曜日）午前11時頃、板橋区内の障害福祉施設から板橋区保健所に「複数名の入所者がおう吐、下痢、腹痛等の症状を呈している。」旨、連絡があった。

【調査結果】　板橋区保健所は、直ちに食中毒と感染症の両面から調査を実施した。

患者は、当該障害福祉施設の入所者17名で、3月13日（日曜日）午前9時から同月15日（火曜日）にかけて、おう吐、下痢、発熱等を呈していた。

当該障害福祉施設の給食施設では、入所者に朝食、昼食及び夕食の三食を提供していた。

患者全員に共通する食事は、当該給食施設が昼食として提供したマッシュ食(※)のみであった。

患者が一同に会する機会はなく、感染症を疑う情報はなかった。

患者17名のふん便から、ノロウイルスを検出した。

患者の症状がノロウイルスによるものと一致し、発症時間に一峰性が見られた。

※マッシュ食とは、ミキサー、裏ごし器等を用いてペースト状にした食事

【決定】　本日、板橋区保健所は、以下の理由により、本件を当該給食施設が昼食として提供したマッシュ食を原因とする、ノロウイルスによる食中毒と断定した。

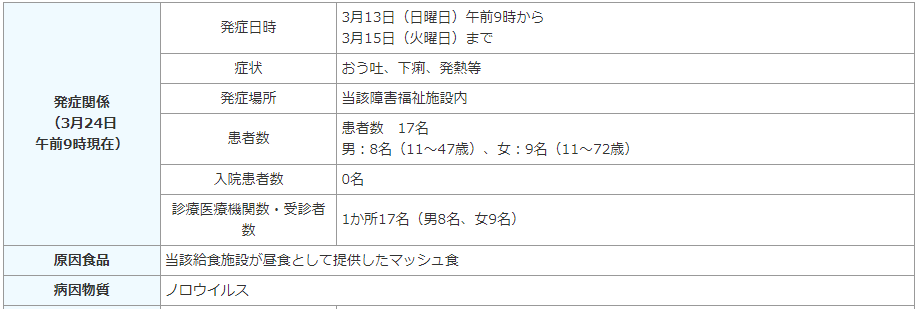
患者17名のふん便からノロウイルスを検出し、患者の症状がノロウイルスによるものと一致していた。

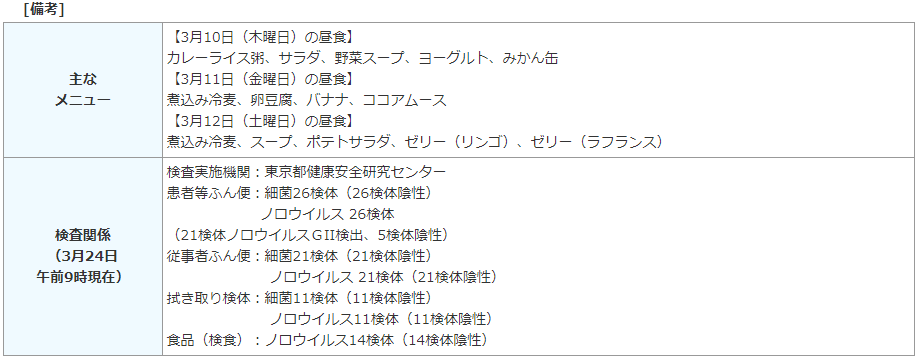
患者の共通食は、当該給食施設が提供した食事のみで、全員が昼食のマッシュ食を喫食していた。

患者の発症時間に一峰性が見られ、施設内で感染症を疑う情報がないことを確認した。

患者を診察した医師から食中毒の届出があった。

【措置】　当該給食施設は、3月23日（水曜日）から食事の提供を自粛しており、板橋区は本日から6日間の営業等停止（給食の供給停止）の処分を行った。





**■佐渡市のすし店でノロウイルス食中毒**

**03月20日　18時24分　新潟 NEWS WEB**

**ノロウイルス**

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/niigata/20220320/1030020553.html>

**ノロウイルスによる食中毒が発生しました　2022/3/20　新潟県佐渡市**

**ノロウイルス**

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/seikatueisei/20220320.html>

　発生概要

　3月17日午前10時20分頃、3月13日に佐渡市内の飲食店「長三郎」が調理した出前料理を喫食した6人中6人がおう吐、下痢等の症状を呈している旨、患者から佐渡保健所へ連絡があった。

　佐渡保健所が調査した結果、3月13日に、「長三郎」にて調理された食事を喫食した70グループ191人のうち、連絡の付いた6グループ34人中、5グループ15人が3月14日正午頃から下痢、おう吐等の症状を呈し、3グループ8人の患者及び同施設の調理従事者3人の便からノロウイルスが検出されたことが判明した。

　同所は、患者に共通する食事が同施設により提供された食事に限られること、患者及び従事者の便からノロウイルスが検出されたこと、医師から食中毒の届出があったことから、同施設が提供した食事を原因とする食中毒と断定した。

　なお、患者は全員快方に向かっている。

患者の状況

摂食者数　191人

患者数　15人　（男性8人、10～70歳代　　女性7人、10歳未満～70歳代以上）

治療を受けた者　7人

入院した者　0人

症状 下痢、おう吐、腹痛等

　原因施設

　　名称　長三郎（ちょうざぶろう）

　　業種 飲食店営業（すし屋）

原因食事　「長三郎」が3月13日に提供した食事

病因物質　ノロウイルス

検査

　検査検体　患者便、従事者便、拭き取り

検査項目　食中毒菌、ノロウイルス

　行政措置　佐渡保健所は原因施設に対して次の措置を実施した。

・営業停止処分　3月20日から22日まで　（3日間）（3月19日から1日間営業自粛）

・調理施設の清掃、設備及び器具の洗浄消毒、従事者の健康管理の徹底を指示

・調理従事者に対して衛生教育を実施予定

テーブル

自動的に生成された説明

**■令和４年集団食中毒発生状況（速報）　2022/3/13　広島県大竹市**

**ノロウイルス**

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/477544.pdf>

　発生日　2022/3/13

　発生場所　大竹市

　喫食者数　16

　患者数　11

原因食品　３月12日に提供された仕出し弁当

病因物質　ノロウイルス

原因施設　飲食店

症状　下痢，嘔吐，発熱等事件概要　提供された弁当を喫食した者から有症者が発生

**★寄生虫による食中毒★**

**■飲食店営業施設等に対する行政処分等　2022/3/23　岩手県久慈市**

**アニサキス?**

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/anzenanshin/shoku/joho/1004489.html>

　公表年月日　2022/3/23

　業種等　魚介類販売業

　施設の名称　全日食チェーンこしど久慈店

　患者数　1名

　適用条項　食品衛生法第　条第55項（旧法）

　行政処分を行った理由　食品衛生法第6条第3号違反

　行政処分等の内容　営業停止（1日間）

**■男性が食中毒、締めさば食べて「じんましん」発症…内視鏡検査でアニサキスを摘出　鮮魚店を営業停止に　2/22(火) 9:01配信　埼玉新聞　埼玉県熊谷市**

**アニサキス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/97368283557e3eaafe9e2b25a68f988d90cf5952>

**■飲食店営業施設等に対する不利益処分等　2022/3/22　世田谷区**

**アニサキス**

<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/fukushi/003/005/d00144614.html>

　公表年月日　令和4年3月22日

業種等　飲食店営業

主な適用条項　食品衛生法（昭和22年法律第233号）第6条第3号及び第51条の規定による基準違反により同法第55条及び第56条を適用

不利益処分等を行った理由　食中毒

不利益処分等の内容　令和4年3月22日（1日間）営業停止

病因物質　アニサキス

備考　食品衛生法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備及び経過措置に関する政令（令和元年政令第123号）附則第2条の規定により、なお従前の例により当該営業を行うことができるとされた場合に該当するため、食品衛生法等の一部を改正する法律（平成30年法律第46号）第2条の規定による改正前の食品衛生法（昭和22年法律第233号）を適用する。

<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/fukushi/003/005/d00144614_d/fil/shousai.pdf>

スクリーンショットの画面

自動的に生成された説明

**■足利の女性しめ鯖で食中毒　2022/3/17　CRT栃木放送　栃木県足利市**

**アニサキス**

<http://www.crt-radio.co.jp/news/5856>

**食中毒の発生について　2022/3/17　栃木県足利市**

**アニサキス**

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/e07/houdou/foodpoison0317.html>

　　令和４(2022)年３月15日（火曜日）正午頃、足利市内の医療機関から安足健康福祉センターに「今朝９時30分頃、腹痛症状で受診した患者からアニサキスの虫体を検出した。」との連絡があったため、同センターが食中毒調査を開始した。

　３月14日（月曜日）午後７時頃、足利市内在住の女性が自宅でしめ鯖を喫食したところ、約４時間後に吐き気、腹痛、下痢、蕁麻疹の症状が現れたため、３月15日午前９時30分頃、足利市内の医療機関を受診した。当該しめ鯖については、友人が３月13日（日曜日）に海で釣り上げ、当日当該友人が自宅で調理したものを譲り受けたものであった。

　同センターは、患者からアニサキス虫体が検出されたこと、患者の症状及び潜伏期間がアニサキスによるものと一致していること、医師からアニサキスによる食中毒の届出が提出されたこと等から、自家製のしめ鯖を原因食品とする食中毒と断定した。

　なお、当該患者以外に４名が当該しめ鯖を喫食したが発症は確認されていない。また、患者は、現在、軽快している。

**■食中毒公表　2022/3/17　江戸川区**

**アニサキス**

<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/documents/8048/syobunnnaiyou.pdf>

公表年月日 令和４年３月 17 日

業種等 魚介類販売業

施設名称 オリンピック葛西店

主な適用条項　食品衛生法第６条違反による、同法第 60 条第１項の適用

不利益処分等を行った理由　食中毒の発生

不利益処分等の内容　営業の一部停止（１日間）

一部停止となる営業の内容　生食用鮮魚介類（冷凍品を除く。）を加工し、販売すること。

なお、冷凍品とは－20℃以下で 24 時間以上の冷凍をしたものをいう。

食中毒の原因 アニサキス

原因となった食品　令和４年３月６日に当該施設が加工し、販売した「いわしのお造り」

備考 患者数 １名

**■行政情報追加　米子保健所管内の飲食店でアニサキスによる食中毒発生　鳥取県米子市**

**3/16(水) 22:47配信　BSS山陰放送**

**アニサキス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/332d6015e9a2fe33e90f09c9d24fa4bfdf01a41e>

**米子保健所管内におけるアニサキスによる食中毒の発生**

**2022年03月16日提供　鳥取件米子市**

**アニサキス**

<http://db.pref.tottori.jp/pressrelease.nsf/5725f7416e09e6da492573cb001f7512/24d68b996b914ae2492588070024786b?OpenDocument&Highlight=0,%E9%A3%9F%E4%B8%AD%E6%AF%92>

内容

1　経　緯

3月15日(火)午後4時半頃、神戸市から西部総合事務所米子保健所に、アニサキス症の患者

1名の発生の連絡があり調査を開始した。

2　調査の概要

患者は、「酒菜　桔梗屋」が調理した食品を喫食したことが判明した。

　患者からアニサキスが摘出され、診察した医師から食中毒の届出があったこと、患者がアニサキス症の原因食品となる魚介類を生食したのは当該施設だけであることから、この施設を原因とする食中毒と判断し、本日、「酒菜　桔梗屋」の飲食店営業に対して、食品衛生法に基づき3月16日(水)1日間の営業停止の処分を行った。

　なお、患者は回復に向かっている。

（1）患者：1名（神戸市内在住の女性　50才代）

（2）原因施設

　　　屋　号：酒菜　桔梗屋（シュサイ　キキョウヤ）

　　　業　種：飲食店営業

（3）病因物質：アニサキス

（4）原因食品：不明

（5）症状：胃痛、嘔吐

（6）喫食日時：3月12日（土）午後7時頃

（7）発症日時：3月13日（日）午前2時30分頃

**■****行政情報追加　また『アニサキス』…飲食店でシメサバ等の刺身食べた女性から検出 食中毒として店を営業停止に　3/15(火) 14:50配信　石川テレビ　石川県金沢市**

**アニサキス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8df41120fcc24c44c9365b3f32a7a41b754845f7>

**食中毒事件の概要について　2022/3/15　石川県金沢市**

**アニサキス**

<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/material/files/group/56/220315_pressrelease.pdf>

１ 発生年月日　令和４年３月 14 日(月)

２ 原因施設　施設名 ： 和小皿料理と炉 エミマグ

業 種 ： 飲食店営業 料理店

３ 事件の端緒　３月 14 日（月）、市内医療機関より、「受診した患者の胃からアニサキスが検出された。」との連絡があった。調査したところ、患者は前日の夜、「和小皿料理と炉 エミマグ」で刺身等を喫食しており、翌日午前１時半頃より腹痛を発症したことが判明した。

４ 事件の状況　調査の結果、

・患者の胃壁からアニサキスが摘出されたこと

・症状及び潜伏期間が胃アニサキス症によるものと一致すること

・胃アニサキス症の潜伏期間内に凍結及び加熱工程のない魚介類を喫食したのは、当該施設のみであること

・診察した医療機関から食中毒患者届出票が提出されたこと

以上から当該施設を原因とする食中毒と断定した。

５ 患者数等　１名 （60 歳代女性） 現在は回復している。

６ 主な症状　腹痛等

７ 措置等　当該施設に対し、３月 15 日(火)の１日間、営業の停止を命ずるとともに、営業者に対して、魚介類の取り扱いについて改善を指示し、併せて衛生教育を実施する。

８ 病因物質　アニサキス

９ 原因食品　３月 13 日に当該施設で調理提供した刺身盛り合わせ

（シメサバ、サヨリ、マグロ、フグ）

□ 本年度中の食中毒発生状況(金沢市) 11 件、 患者 65 名(本件含む)

□ 昨年度同期の発生状況(金沢市) ４件、 患者　８名

■ 本年度中の食中毒発生状況(石川県) 18 件、 患者　85 名(本件含む)

■ 昨年度同期の発生状況(石川県) ８件、 患者 　25 名

（参考）

金沢市内のアニサキス食中毒発生状況：

平成 30 年 （1 月～12 月） １件

平成 31 年・令和元年（ 〃 ） ２件

令和 ２年 （ 〃 ） ４件

令和 ３年 （ 〃 ） ４件

令和 ４年 （1 月～ ） ４件（本件含む）

**■飲食店営業施設等に対する不利益処分等　2022/3/14　東京都小平市**

**アニサキス**

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/ihan/kouhyou.html>

　公表年月日　220314

業種等　飲食店営業

施設の名称　魚やの台所

主な適用条項　食品衛生法等の一部を改正する法律（平成３０年法律第４６号）第２条の規定による改正前の食品衛生法（昭和２２年法律第２３３号。以下「法」という。）第６条の規定に違反するので、法第５５条を適用

※食品衛生法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備及び経過措置に関する政令（令和元年政令第１２３号）附則第２条の規定により、なお従前の例により当該営業を行うことができるとされた者であるから、当該営業者に対する不利益処分については、この法を適用する。

不利益処分等を行った理由 食中毒

不利益処分等の内容　営業停止命令（３月12日）

生食用魚介類（冷凍品を除く。）の調理、提供に限る

備考　（３月11日現在の状況）

原因食品：当該施設で調理、提供した「シメサバ」及び「ブリの刺身」

病因物質：アニサキス

３月３日から患者１名が腹痛、下痢を発症

**★細菌による感染症★**

**■（週報）腸管出血性大腸菌感染症（３類感染症）の発生について　2022/3/22**

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/5/6/0/4/6/2/0/_/040322-06daityoukin.pdf>

北見保健所

　令和4年第11週　3月14日～3月20日に道立保健所管内で腸管出血性大腸菌感染症（ベロ毒素産生）が発生したのでお知らせします

記

テーブル

自動的に生成された説明

**★ウイルスによる感染症★**

**■老人ホームでノロウイルス、利用者１人死亡　京都府久御山町**

**2022/3/19 14:34　産経WEST**

**感染症　ノロウイルス**

<https://www.sankei.com/article/20220319-B64DLPNKVBJ2XBKGC5RDJSWIYM/>

**★その他関連ニュース★**

**■不利益処分等のお知らせ　2022/3/23　港区**

**飲用水**

<https://www.city.minato.tokyo.jp/shokuhinkanshi1/kurashi/shokuhin/anzen/kyoka.html>

　公表年月日　令和4年3月23日

業種等　飲食店営業(\*注1)

施設の名称及び施設の所在地

施設の名称　南青山ひふみ

施設の所在地　東京都港区南青山

改善勧告を行う理由　水質検査の結果、飲用に適する水の条件を満たさないことが明らかとなったため、直ちに使用を中止するよう指導したが、再度水質検査をすることなく使用を再開していた。

主な適用条項　食品衛生法第51条第2項を適用(\*注2)

改善勧告書の内容 　水質検査の結果、飲用に適する水の条件を満たさないことが明らかになった場合は、直ちに使用を中止すること。

食品衛生法施行規則66条の2第1項の規定による別表17

4　使用水等の管理　イ　ロ　ハ　(\*注3)

備考

(\*注1)令和元年政令第123号の附則第2条の規定により、なお従前の例による営業

(\*注2)食品衛生法第51条第1項

　　　　厚生労働大臣は、施設の衛生的な管理その他公衆衛生上必要な措置について、厚生労働省令で、基準を定めるものとする。

食品衛生法第51条第2項

　営業者は、前項の規定により定められた基準に従い、厚生労働省令で定めるところにより公衆衛生上必要な措置を定め、これを遵守しなければならない。

食品衛生法施行規則66条の2第1項

　　　　　法第51条第1項第1号に掲げる事項に関する同項の厚生労働省令で定める基準は、別表第17のとおりとする。

(\*注3)食品衛生法施行規則66条の2第1項の規定による別表17

4　使用水等の管理

　イ　食品又は添加物を製造し、加工し、又は調理するときに使用する水は、水道法(昭和32年法律第177号)第3条第2項に規定する水道事業、同条第6項に規定する専用水道若しくは同条第七項に規定する簡易専用水道により供給される水(別表第19第3号ヘにおいて「水道事業等により供給される水」という。)又は飲用に適する水であること。ただし、冷却その他食品又は添加物の安全性に影響を及ぼさない工程における使用については、この限りではない。

　　ロ　飲用に適する水を使用する場合にあつては、一年一回以上水質検査を行い、成績書を一年間(取り扱う食品又は添加物が使用され、又は消費されるまでの期間が一年以上の場合は、当該期間)保存すること。ただし、不慮の災害により水源等が汚染されたおそれがある場合にはその都度水質検査を行うこと。

　　ハ　水質検査の結果、飲用の条件を満たさないことが明らかとなつた場合は、直ちに使用を中止すること。

**■インフルエンザ、10都県から計18人の報告 - 厚労省が7日から13日までの1週間の状況**

**公表　3/18(金) 15:25配信　医療介護ＣＢニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/f6f1bb7bfd97531b9d3ca58329c4c7d1339656ab>

**■昨年の食中毒発生件数　アニサキスが4年連続最多**

**2022/3/24　日本消費者新聞**

<https://www.jc-press.com/?p=8052>

**■厚労省、食中毒件数が最少を更新　コロナ影響より色濃く　2022/3/17**

**食料新聞**

<https://news.nissyoku.co.jp/flash/839105>